

令和7年度 評価計画及び自己評価

(中間)

音戸中学校区 校番 19 学校名 音戸中学校

a 学校教育目標	<小中一貫教育目標> ふるさとを愛し、自律できる 児童生徒の育成 志をもち、自ら動き、 たくましく生活する 生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 生徒・保護者・地域の期待に応える中学校教育の実現 <ビジョン>(将来の学校像) ~連携・伝統・創造~ ○生徒に、学ぶ喜びと生きる夢を与える学校 ○職員に、責任と意欲を育む学校 ○保護者・地域に、元氣と文化を発信し続ける学校
----------	--	----------------------	--

c 中期経営目標を踏 まえた現状(進捗状 況)と今年度の重点	○基礎学力や学習習慣の定着が不十分な生徒が多い。 →小中が連携した計画的な授業研究と、定期的な校内研修に基づく授業改善の推進 ○コミュニティスクール導入により地域の方から協力が得やすくなる。 →学校運営協議会の仕組みを効果的に活用した地域と協働した総合的な学習の時間の充実 ○自己肯定感をもちきれない生徒が多く、不登校・発達障害(傾向)の生徒の組織的支援が不十分である。 →生徒主体の活動の活性化による自己肯定感の向上と、SC等を活用した個に応じた支援の充実
--------------------------------------	--

育成すべき資質・能力	(1) 知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力 (3) 協働的に関わる力 (4) 地域の一員として関わる力
------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③ 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	確かな学力 「自分の考えをも つ力」「自分を表 現する力」を主体 的に身に付けた 生徒の育成	① ○生徒が主体的 に課題解決に取 り組む授業づく りの推進	○中学校区の授業モデルを基 にした、考える授業づくりを推 進する。 ○ICTを効果的に活用した授業 実践を行う。	○学期末テストの正答 率40%以下の生徒の 割合(国・数・英)	30% 未滿	24.4%	108.0%	A			
		○校内授業研究 の充実	○指導主事を招聘した校内授業 研究会を計画的に実施する。	○指導主事を招聘した 研究授業の実施	年間 3回	-	-	-			
**	豊かな心・健 やかな体 「地域とつなが ろうとする力」「チャ レンジする力」「体 力を高めようとし る力」を身に付け た生徒の育成	○地域協働活動 の推進	○学校運営協議会の仕組みを 活用しながら、地域行事やボラ ンティア活動などへの参加を 促す。	○年間1回以上ボラ ンティア活動等に参 加した生徒の割合	75%	49.3%	65.7%	C			
		○生徒のニーズ や思いに応じた 支援の充実	○学校体制で教育相談を全生 徒に実施する。 ○保護者や関係機関、SC等の 専門家と連携し、個々の生徒 に対応する。	○「学校に行くのは楽し い」と回答した生徒の 割合	85%	90.9%	106.9%	A			
		○生徒主体の活 動の充実による 自己肯定感の 高揚	○生徒会・委員会活動を日常的 に行い、活性化させる。 ○サウンドバッジ制度を活用し 、生徒の挑戦・努力する姿を評 価する。	○自己肯定感に関する アンケートにおいて、 肯定的評価をした生 徒の割合	80%	77.6%	97.0%	B			
		○生徒の運動意 欲の高揚	○前回の記録を基に各自の目 標を設定させ、記録更新をめ ざして新体カテストに取り組み るように工夫する。	○運動やスポーツが好 きな生徒の割合	90%	85.9%	95.4%	B			
*	安心・安全な学 校 「自分の命を自分 で守る力」「人を 大切にする力」を 身に付けた生徒 の育成	○地域の災害リ スクを踏まえた 防災教育の充実・深化	○地域人材や出前授業等を活 用し、自分事として捉えられる 実践的・体験的な防災教育を 実施する。	○災害時に避難する 場所や避難の仕方につ いて理解している 生徒の割合	100%	95.8%	95.8%	B			
		○いじめを許さな い学校環境づく りの推進	○校内研修を計画的に実施し 、いじめの積極的認知と早期対 応を行う意識を高める。 ○いじめ防止委員会を定期的 に開催し、情報共有を行う。	○「いじめはどんな理 由があってもいけな いことだと思います」 に肯定的に回答した 生徒の割合	100%	95.0%	95.0%	B			
業務改善	教職員がやりが いを感じ、生き生 きと働く職場づく り	○教職員の時間 外勤務時間の 縮減 ○教職員が話し やすい雰囲気づく り	○部活動休養日と定時退校日 を徹底する。 ○教職員に対する肯定的評価 や温かい声かけを励行する。 ○定期的に業務量の調整を行 う。	○1ヶ月の時間外勤務 時間が45時間未滿の 職員の割合	70%	71.9%	102.7%	A			
				○「日々の業務の中 で充実感を得られて いる」と肯定的に回 答した職員の割合	90%	-	-	-			

[k:評価]
 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60